

資料(4)-⑥

第4回 長崎県地域防災計画見直し検討委員会資料

液状化について

平成24年2月13日



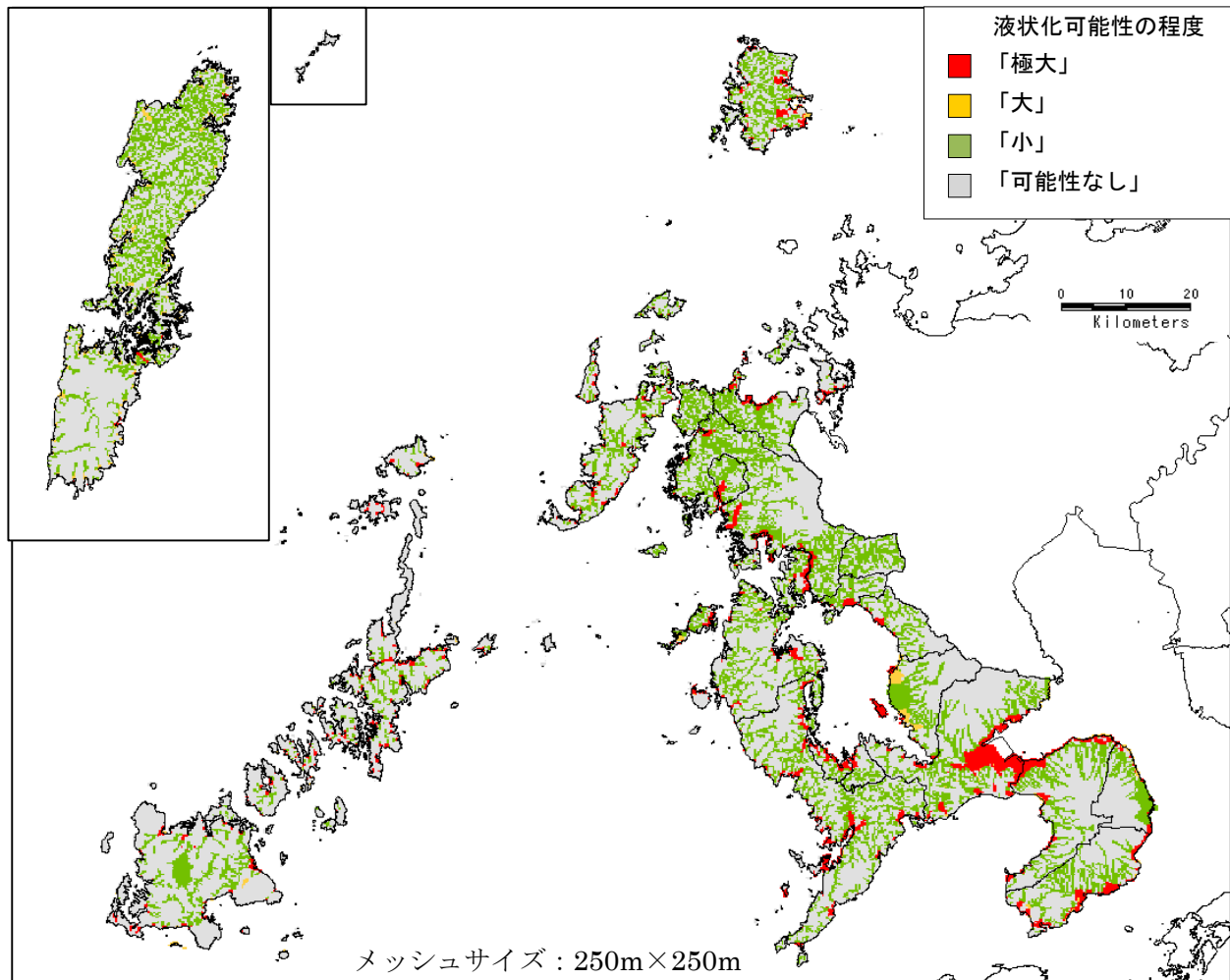
## 液状化について

平成 17 年度アセスメント（長崎県地震等防災アセスメント調査）において作成した 5 つの想定活断層による液状化危険度マップ以降、地盤情報量は増えていない。また、今回の津波シミュレーションの対象波源としている 4 連動モデルによる長崎県内の震度は、平成 17 年度に検討した値よりも大きくなる危険性は少ないと判断されている。

このため、当面、液状化の素因の一つである地形に応じた『微地形区分による液状化可能性マップ』、さらに、それぞれの地域（解析要素 2 5 0 m メッシュ）における 5 つの想定活断層による液状化危険度（P L 値）の最大値を抽出した『想定 5 地震による液状化危険度の重ね合せ図』等により、液状化の危険性について、県民への周知、注意喚起を図っていく。

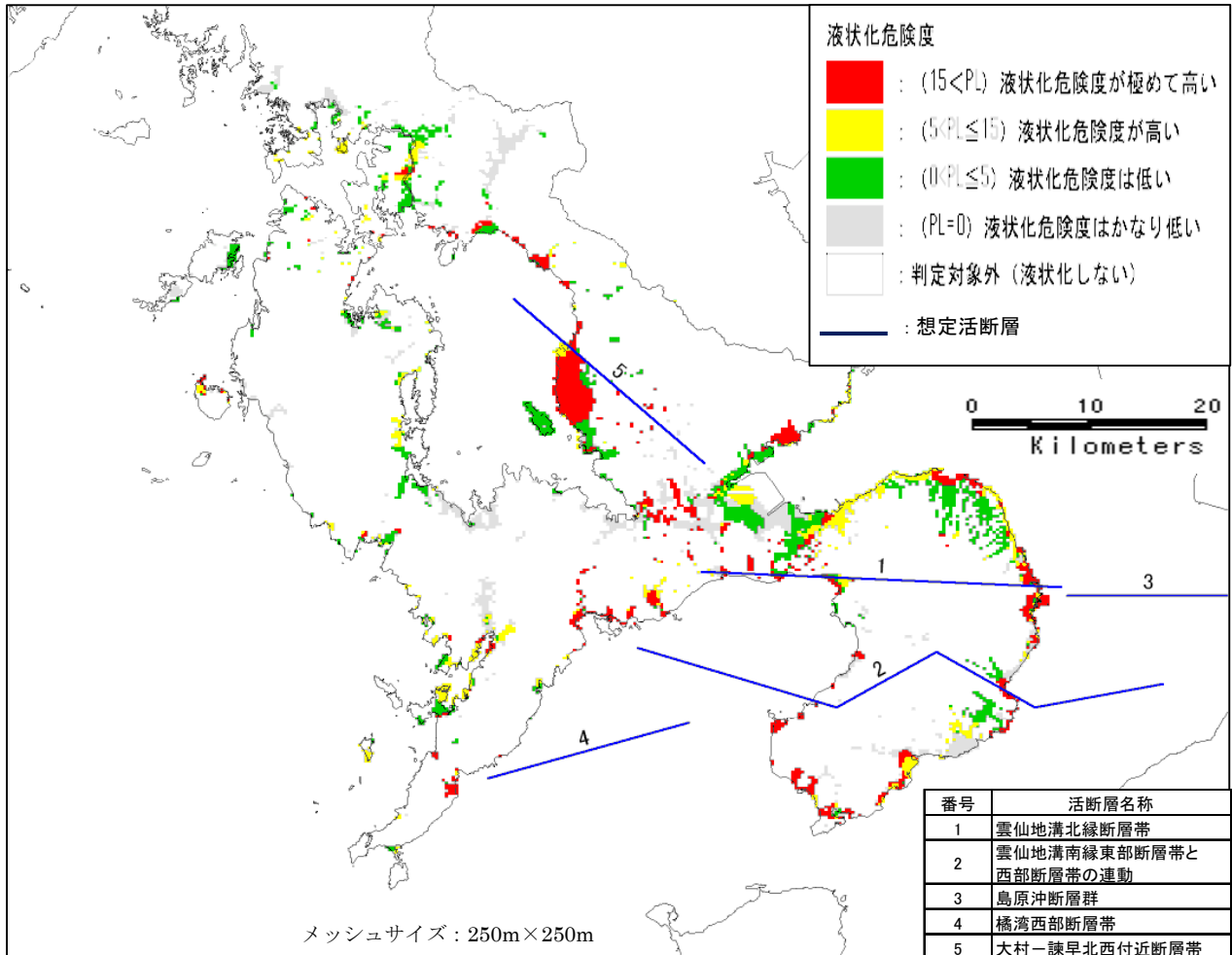
また、個別住宅における液状化対策は、所有者・建築主等の自己責任であるが、液状化の仕組み、地盤調査や対策工事の手法、地震保険制度等の情報提供のあり方について今後、検討していく。

以上



- 本資料は「液状化地域ゾーニングマニュアル 平成 11 年 1 月 国土庁防災局震災対策課」に従い、平成 17 年度アセスメントで作成した微地形区分図を基に、液状化の危険度を一般的に指摘される可能性程度で表した資料である。
- 従って、特定の地震動による液状化判定結果ではない。
- 本資料では、液状化対策工の有無及びその効果判断はおこなっていない。

図-1 微地形区分による液状化可能性マップ

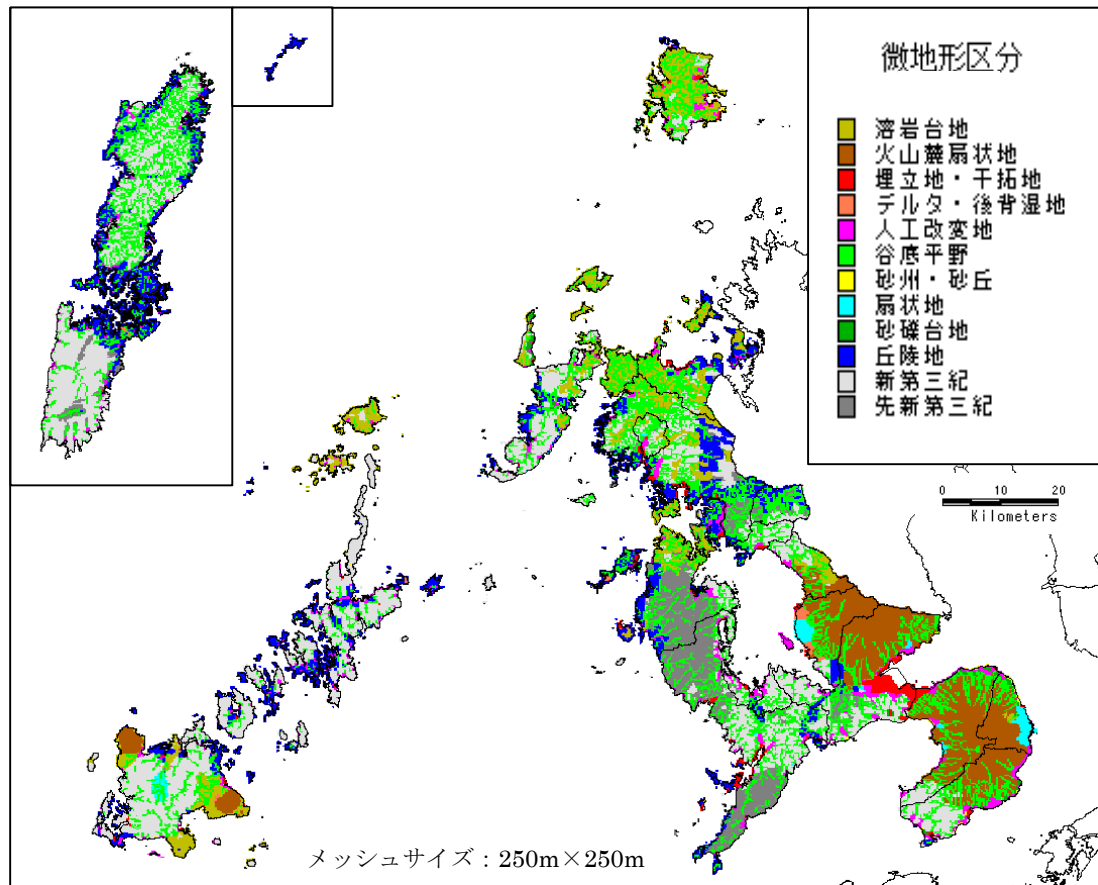


出典：長崎県地震等防災アセスメント調査 平成 18 年 3 月

注) 平成 17 年度アセスメントでは、図中に示している諫早市の中央干拓地の地盤評価は行っていない。

- 本資料は 250mメッシュ範囲において、図中に示す 5 震源の地震に対して個別に求めた PL 値の最大値を抽出し、危険度として評価した資料である。
- 本資料は 5 震源を対象とした液状化判定結果であり、その地域の液状化に対する危険度を表した資料ではない。

図-2 想定 5 地震による液状化危険度の重ね合せ図



出典：長崎県地震等防災アセスメント調査 報告書 平成 18 年 3 月

図-3 微地形区分図

表-1 H17 年度アセスメントに基づく微地形区分と液状化の可能性の程度区分

H17 年度アセスメントに基づく微地形区分	表層地盤の液状化の可能性の程度	
	レベル 2 地震動	備考
溶岩台地	可能性無し	-
火山麓扇状地	可能性無し	-
埋立地・干拓地	極大	埋立地として評価
デルタ・後背湿地	大	湿地、後背低地として評価
人工改変地	極大	盛土等として評価
谷底平野	小	-
砂州・砂丘	大	砂州として評価
扇状地	小	-
砂礫台地	可能性無し	台地として評価
丘陵地	可能性無し	-
新第三紀	可能性無し	山地として評価
先新第三紀	可能性無し	-